

「チュラーロンコーン大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部2年 濱 希望

① 学習の成果

今回のプログラム参加は自分を変えたいというのが主な目標でした。実際に参加してみて、チュラーロンコーン大学生や一緒に行った京都大学生からの刺激は大きかったです。タイ人の日本語学習者の学習内容のレベルの高さにも驚きましたし、京大の先輩から就職や大学生活のことなど興味深い話を聞くこともできました。その中で思ったのは目標を持って学習していくことが大事だということです。あと2年の大学生活ですが、一つ一つ目標を立てて学習に励みたいと思います。

② 海外での経験

タイと日本の文化の違いはタイ人学生との会話や日常生活で感じるが多々ありました。食の違いはもちろんですがわたしが驚いたのは、肩が凝ることや肩叩きの存在がなかったことです。何気なく話していて気づいたことですが本当に驚きました。季節の違いも日本とタイの文化の違いに大きく影響を与えていました。

大学教育の違いも感じました。合同発表や実際の授業への参加によって気づいたことですが、日本では文献を読み解くことに比重を置いています。タイでは発表やプレゼンテーションに力を入れていました。合同発表の準備の際もタイ人学生は見やすいスライドを作ったりアンケートなどからデータを得たり発表に慣れている様子でした。またタイ人の英語力の高さに驚きました。

③ プログラム内容

タイ語の授業は、テキストをかなり早足ですすめた印象でした。しかし、実際すぐに役立ちそうな会話表現ばかりで、その日授業で学んだ表現を昼休みに食堂で使ってみるなどしていました。学んだ内容をすぐ実践として試してみることができたのはよかったです。

文化や歴史の面では、周辺の国々の影響の強さに島国である日本との違いを感じました。アユタヤ遺跡を見学したときには街のなかに茶色いレンガの建物がところどころ現れてくる様子はわたしに異国を感じさせました。頭が無くなった仏像の列や崩れた建物、木の根に埋もれた仏頭には戦争の激しさや自然と人の世との時間の流れの違いを感じました。他にもムエタイ観戦、ワット・プラケーオ、タイ料理づくりなどがあり、どれもタイの歴史や文化を生で感じられるものでした。

プログラムの最後、日本語学科のチュラ大生との合同発表には反省点はありますが、違う国の大学生と話し合い一つのものを作り上げるといういい経験ができたと思います。

③ 進路への影響

留学についてもともと興味はあったのですが、なかなか踏み込めずにいて今回のプログラムも思い切って参加したものでした。しかし、日本語学科の生徒の留学経験の多さや実際にチュラ大に留学している日本人を見て留学はそんなに珍しいことではないのだと思いました。京大の他の参加者にも大学のこのようなプログラムへ参加して様々な経験をした人が多いです。

今回のことから京都大学にはたくさんの海外研修プログラムや海外交流の機会が設けられていることに気づかされました。またそのようなプログラムがあれば是非参加してみたいと思います。

またわたしたちの大学での生活をサポートしバンコクの街を案内してくれたチュラ大生たちのように、わたしも京都大学で外国からの留学生のお世話・交流をしてみたいです。

今回のプログラムでは多くの人に助けられました。チュラ大日本語学科の学生は毎日わたしたちを楽しませようとしてくれました。また私たちの生活のサポートをくださったチュラ大の先生方、準備から帰国後までお世話をしてくださる京大の先生方本当にありがとうございました。